

西濃農林事務所の普及活動状況（令和8年9月）

今月の重点活動

■教育機関との連携 ハツシモのリブランディング（9月10日）

大垣養老高校で県産米「ハツシモ」のリブランディングを考える「若者未来デザイン会議専科」の第1回事前授業が開催された。これは、県農産物流通課が主催したもので環境科学科2年生を対象に3名の講師が授業を受け持った。

授業では、農林事務所から岐阜県における米作りについて紹介したのち、J Aにしみのから管内におけるハツシモの概要について説明した。さらに、大垣市のフードコンサルティング会社代表から、リブランディングを考えていくうえで大事になるブランディングの手法や、キャッチコピーの作り方についての講義があった。

今後は10月8日に第2回事前授業が計画されており、12月の発表に向けてグループごとにキャッチコピーを考え、ハツシモPRポスターを作成することとなっている。

農林事務所は、引き続き大垣養老高校と連携を取りながら発表に向けた支援を続けていく。



【岐阜県における米作りの紹介】

新たな担い手の確保

■女性農業経営アドバイザー 恵那市で視察研修会開催（8月20日）

GLAMAいきいきネットワーク西濃ブロック（会員10名）は、8月20日、恵那市上矢作町の㈱クリエイティブファーマーズの視察研修を行った。

同社は、夏は夏秋トマト栽培、冬はいちご栽培を行う傍ら、年間を通じてトマトジュースや味噌、バウムクーヘンなどの製造・販売を行っている。特に、バウムクーヘンは地元産原料にこだわった製造をしており、主に都市住民をターゲットに販売している。

当日の参加者は、OBを含め6名と少なかったが、石川代表取締役（女性）からの説明を真剣に聞き、積極的に質問するなど、交流を深めた。

農林事務所は、本研修会実施に係る支援を行っており、今後も女性農業経営アドバイザーの要望に応じた研修会の開催などを支援していく。



【バウムクーヘン製造の説明に耳を傾ける会員】

■アグリパーク みかんの摘果体験会を開催（8月22日）

海津市では、南濃みかん産地を次世代につなぐため市役所が事業主体となり、県のアグリパーク構想推進事業に取り組んでいる。

今回は、みかんの管理作業で人手が不足する摘果について体験会を開催した。当日は、体験希望者・みかん部会役員・関係機関など10名が参加し作業を行った。農林事務所は体験会開催に向けた調整や作業前の資料説明を行った。現地での作業は、みかん部会役員から手ほどきを受け、参加者全員で摘果した。初めは不慣れな手つきで作業を行っていたが次第に上達し、最後には摘果すべき実を見極めて手早く作業できるまでにいった。

今後、11～12月には収穫体験会を開催する計画であり、農林事務所は事業主体である海津市やみかん部会と連携し、収穫体験会への参加者を募っていく。



【摘果体験の様子】

■農業大学校学生 先進農家派遣学習出発式を開催（9月16日）

県農業大学校では先進農家に学生を派遣して、農業生産現場の現状や農業経営を学ぶ先進農家派遣学習を行っている。

今年は西濃地区の派遣者（2年生）が1名であったため、派遣先である（株）西濃パイロット事務所に関係者が集まり出発式を行った。式では農業普及課長から激励のことば、本人からは研修への抱負や意気込みについての発言があった後、受け入れ農家から研修にあたっての注意事項について説明があった。

農林事務所は今後も農業大学校と連携し、学生の学習を支援していく。



【出発式の様子】

潜在力をフル活用した生産強化

■水稻採種ほ ほ場審査を実施（8月25日、9月17日）

大垣市の（農）大垣南では「ハツシモ岐阜SL」の種子生産を約9haで行っており、8月（出穂期）と9月（糊熟期）にほ場審査を行った。

当日は農林事務所を含む関係者、生産者など20名で採種ほに入り生育状況の確認や異株の抜き取りを行った。その結果、どの採種ほも肥培管理や病害虫・雑草防除が的確に行われており、全筆合格となった。

今後は、収穫された種もみの生産物審査（発芽試験）を行う予定で、農林事務所では良質な種子生産に向けて継続的な支援を行っている。



【ほ場審査の様子】

■きゅうり 海津胡瓜部会栽培研究会を開催（9月3日）

海津胡瓜部会は、抑制栽培ほ場の巡回および栽培研究会を開催した。ほ場巡回には、有志生産者が部会員6名のハウスを訪問し、栽培状況について検討した。

その後の栽培研究会はJAにしみの海津中支店で開催され、全ての部会員が参加した。研究会では、農林事務所から病害虫防除や高温対策、岐阜みどり農業認定制度について説明した。また、栽培品種を供給している種苗会社から品種ごとの栽培特性について、現地巡回を踏まえた助言が行われた他、県農業技術センター野菜部から今作の試験研究計画等の情報提供が行われた。農林事務所では、今後もきゅうりの単収・品質向上に向けて、支援を続けていく。



【ほ場巡回の様子】

安心できる農畜水産業と農村の環境整備

■水稻 脱プラ・減プラ肥料の現地検討（9月3日）

水稻の緩効性肥料が引き起こすマイクロプラスチック問題に対応するため、環境に配慮した脱プラ・減プラ肥料の開発、普及が進んでおり、海津市内の実証ほ場では県の主力品種「ハツシモ岐阜SL」に対応した減プラ、脱プラ肥料各1銘柄の実証試験を行っている。

今回の現地検討には、農林事務所の他、JA全農岐阜肥料農薬課および肥料メーカーが参集し、出穂期頃の生育確認を行うとともに、肥料の効き方、今後の販売方針について意見交換を行った。農林事務所からは実証ほの生育経過と今後の調査計画について説明した。

農林事務所では、今後も関係機関の意向を踏まえながら、生産者の収益性を損なわない資材の検証、普及を行っている。



【生育状況の確認】